



不動岡高校の過去現在未来について

学友会会長 大橋 良一(78回生)



皆さん、こんにちは。学友会会長の大橋良一です。

学友会だよりや総会の際にもお話をさせていただきますが、平成27年に不動岡高等学校は創立130周年を迎えます。130周年を迎えるまでに様々な歴史が刻まれたことでしょう。そこで今回は、我が母校「不動岡高等学校」の変遷について改めてお話をさせていただきます。

不動岡高等学校の歴史は、北埼玉地域の教育に熱心な有志により明治19年に「私立埼玉英和学校」として開校したところから始まり、何回かの改称を経て、昭和23年に「埼玉県立不動岡高等学校」に改称され現在に至っています。

その間、この地域における有望な子弟の教育機関として高い評価を得てまいりました。特に、小中学校等の教育界を中心に多くの優秀な人材を排出してまいりました。校舎等の施設も、昭和24年の火災で、さらには平成19年の全面建替を経て、超近代的な施設として生まれ変わっております。

平成2年には外国語科を新設し、平

成15年にはオーストラリア・キングロイ高校、中国・ウフホト第二中学との姉妹校協定を調印し、現在まで交流が続いてきています。本年7月には、キングロイ高校の交換留学生が加須市役所を訪問し、有意義な意見交換を行うことができました。また、8月には不動岡高校の生徒がキングロイ高校のあるサウスバーネットを訪問し、その時の様子や加須市の紹介が現地の新聞に取り上げられました。

さらに、平成23年には文部科学省指定のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)、本年はSGH(スーパーグローバルハイスクール)の指定を受けています。このように、不動岡高校は130年の歴史の中で、質実剛健と文武両道の精神を受け継ぐ伝統ある学校として、また、先進的な教育を行う学校として北埼玉地域の教育や人づくりの中心を担ってまいりました。

今後は、到来している少子化の中にあっても、「明日の世界を創造する品格あるリーダー」となる生徒達がお互いに切磋琢磨し成長する場所となること、また、この先百五十年、二百年と不動岡高校の伝統が連綿と続くことを願ってやみません。

最後になりますが、会員の皆様をはじめ在校生、保護者の皆様、そして先生方の御活躍をお祈り申し上げますとともに、今後学友会の活動に二層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

130年の伝統とともに

校長 阿久津利明



皆様の母校である不動岡高等学校には、この春に第130回生367名が入学し、区切りの年を迎えました。また、その不動岡生を鍛え育む本校教職員は、今年度の常勤教職員81名のうち31名が本校の卒業生であり、これも真の伝統校ならではのことに言えます。

本校の様々な教育活動や取組のうち、文部科学省からの指定を受けているスーパーサイエンスハイスクール(SSH)は今年度5年目を迎えました。そして、この4月に、本校はスーパーグローバルハイスクール(SGH)として5年間の指定を受けました。文部科学省の大きな事業であるSSHとSGHをダブルで指定されている高校は、県内の国公立と私立の中

でも本校だけでなく、全国的にも数少ない高校のうちの1校です。加えて、「不動岡市民大学」(事務局長:第86回生船川喜正氏)も、地域の文化活動の拠点として立派にその役割を果たしています。昨年度末の進路実績は、東京大学3名、国立大学医学部医学科2名の合格をはじめ、旧帝大(北海道大2名、東北大2名、名古屋大1名)、早慶上智ICUに28名等と、現役生・浪人生ともに上々の結果を出すことができました。また、文武両道の本校にあつて、部活動でも今年度は陸上競技部が棒高跳びで水泳部が100m平泳ぎで、それぞれインターハイ出場を果たし、新聞部も全国高等学校総合文化祭に出場しました。PTA・後援会においては、今年度、PTA会長に第92回生の酒巻浩一氏が、後援会長には昨年までPTA会長を務められた第87回生の木村弘氏が、それぞれ就任されました。お二人とも本校学友会員として地元で活躍されており、大変心強く思います。そして、私自身も今年度本校で3年目を迎え、両会長と共にこの節目の年に全力で本校を盛り上げてまいります。

学友会の皆様には、改めて日ごろの御支援に対しまして深く御礼を申し上げますとともに、今後とも母校への変わりないお力添えをお願い申し上げます。

学友の集い(学友会総会)にご参加ください

恒例の学友の集いを下記のとおり開催いたします。創立130年を迎える母校を御自身の目でご覧いただき、旧交を温めていただければ幸いです。今年度より学友会特別企画として古希をむかえる学友の皆様(76回生)をご招待いたします。皆様お誘い合わせの上ぜひご参加下さい。

日時 平成27年11月15日(日) 午後2時より

会場 埼玉県立不動岡高等学校

総会議事

- ①会務・会計報告
- ②事業予定及び予算
- ③慶祝者表彰
- ④その他

本校OBによるガラコンサート

在校生による吹奏楽演奏

懇親会 午後3時半より

不動岡百周年記念館にて

懇親会費 3,000円

(当日受付でいただきます)

*古希の皆様はご招待

お問い合わせは ☎0480-61-0140まで

※特に企業において活躍されている方もご推薦下さい。

平成27年度 慶祝者名一覽(敬称略)

- 63回生 小林 稔 旭日双光章
- 65回生 齋藤 馨 旭日双光章
- 67回生 鳥海 恒雄 旭日双光章
- 68回生 遠藤 俊作 旭日双光章
- 74回生 奈良 昭雄 旭日双光章
- 74回生 由木 義文 瑞宝小綬章
- 75回生 内田 清 旭日双光章
- 76回生 藤浪喜久夫 瑞宝双光章
- 84回生 松本 稔 埼玉県大久保浄水場長
- 88回生 小林 澄江 行田須加小学校長
- 89回生 中島 守 埼玉県狭山保健所長
- 89回生 増田 雄一 白岡大山小学校長
- 90回生 駒宮 正行 春日部中学校長
- 92回生 内田十詩哉 久喜相間小学校長
- 92回生 萩原 由浩 県企画財政部改革政策局長
- 93回生 麻生 雅彦 白岡善哉中学校長
- 94回生 内田 靖 吉川美南高等学校長
- 95回生 川島 規行 春日部富多小学校長
- 95回生 中里 孝 加須大和根東小学校長
- 97回生 野本 昌宏 北北小学校長

学友会表彰について

本年度までは、学友会担当の委員が、新聞発表等より、本校出身の表彰対象者を探し、電話等にて確認し表彰してまいりましたが、個人情報保護の観点からそれも難しくなっております。そこで、来年度平成28年から学友会の表彰は、自薦または他薦にてご連絡を頂いた方のみとさせていただきます。表彰規程は次のようになります。該当又は推薦される方は学校にご連絡をお願いいたします。

- 1 県市町村の首長、国会・県会議員に選出された者
- 2 学位を受けた者
- 3 国の褒章を受けた者
- 4 国またはこれに準ずる団体や県等の賞状を受賞し功績が顕著な者
- 5 学術文化上特に功績が顕著であり会長が認めた者
- 6 県内公立学校長、県職副部長、部長等に補せられた者
- 7 本校に13年以上勤続された教職員
- 8 本会会務の運営に多大の貢献をした者
- 9 前各号以外で特に会長が慶祝表彰に値すると認めた者

学友会NEWS

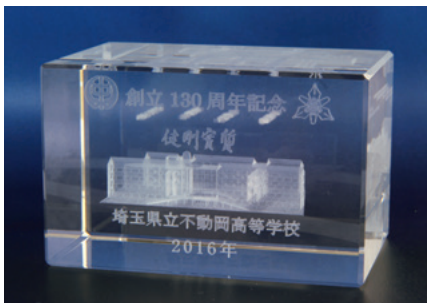
130周年記念事業について

平成26年5月、大橋良学友会長を執行委員長とし、木村弘PTA会長(当時)梅澤義(後援会会長(当時)、阿久津利明校長、鈴木良典、利根川典子、両教頭、及び島田孟事務室長、小野田幸夫、塩原壮、学友会担当教諭のもと、130周年記念事業実行委員会が設立されました。

『学校と生徒を元気にする』というコンセプトに基づき、平成28年度に記念事業を行うこととなります。記念事業の内容としては、130周年記念誌の制作配布、学校新聞等縮小版の作成、また、各種行事(芸術鑑賞会、講演会等)は、130周年記念として予算を通常より増額して盛大に実施することとなります。

また当初、校内施設整備、記念館の改修、格技場の改修、映像記録等も挙げられましたが、予算的に難しいとして検討からはずされ、生徒への記念品の製作配布も「予算の残額をみて」とされておりました。

そこで学友会では独自の記念事業として、学友会員の皆様からのご寄付により、130周年の記念品を製作し、現役の生徒に贈ることとして、今回「130周年記念事業に際しての寄付のお願い」を同封させていただきました。



サイズ:W80×D50×H50

- 記念品
- は「肥前びいごろ」
- (佐賀市重要無形文化財指定)の置物
- で、校舎・校章・校歌・校訓等

を3Dでレーザー加工したものです。(写真参照)130周年記念事業が行われた年に在学した記念に生徒に贈るものとして、ふさわしいものと考え決定いたしました。

尚、寄付のお願いにも記載させていただきましたが、ご寄付はお一人3000円以上でお願いいたします。ご寄付を頂きました皆様には、記念品及び記念誌を送らせていただきますとともに、お礼の意味も込めまして、来年度の学友会だよりに、お名前を掲載させていただきます。お名前掲載不可の方は払込取扱票にご記入ください。

母校のさらなる発展、また、未来を担う現役生徒に対しての会員の皆様のご厚情を賜りたく心よりお願い申し上げます。

(学友会事務局)

古希祝のご案内

76回生の皆様へ

11月15日に行われる学友会懇親会に古希を迎えられる76回生の皆様をご招待致します。(開催の詳細は1ページ目左を御覧ください。)

現在の不動岡高校を、ご覧いただき、級友や先輩、後輩との話を花を咲かせて頂ければと思います。

76回生の方

- 卒業：昭和39(1964)年3月卒業
- (生年月日(参考)：昭和20(1945)年4月2日～昭和21(1946)年4月1日)
- 懇親会費は無料です。
- 古希の皆様に向けたイベントを用意しております。

申込方法

同封の返信はがきの回生欄に76回生とお書き頂くだけで結構です。多くの皆様のご参加お待ちしております。

古希招待に寄せて 近況報告

76回生 鹿児島金衛

図らずも、不動岡高校学友会より、原稿依頼を受けた。依頼文では「学友会総会を魅力あるものにするために検討を重ねた結果、古希のお祝いを兼ねて該当する卒業生年次の皆様を総会へご招待することになった」とのこと。第1回目として76回生を招待する由、それに先立ち、近況をお寄せいただきたい、とのこと。なぜ、自分が選ばれたのか分からないが、久しぶりに母校、不動岡高校を懐かしく感じた次第である。私は卒業後、大

学を経て、中学校の英語教師になった。76回生で私のように中学校の英語教師をしてい

た方もいたようだが、小・中学校の教員ならかなりの数の方がいたのではないかと思う。

定年退職後、ご縁をいただき、教育長(鷲宮市教委)を務めることになった。驚いたことに、

当時、東部教育長会議に3名の同級生が教育長として出席していた。内田清君(騎西町教委)、橋本勉君(北川辺町教委)、小森洋君(大根根町教委)である。高校時代の友情が

復活し、教員の人事など、難しい課題で協力し合えたことは幸運であった。時が流れ、自

分が古希を迎える年齢となった。今、我が身を振り返ると、校歌の教えにあるように「不

断の努力一筋に、理想をさして進み行く、明朗質素の若き友」のような生き方ができた

かどうかは心許無いが、我が教員人生は充実したものであった。しかし、人生では「まさ

かの坂」も経験した。私は52歳のとき、苦業をともにした最愛の妻を病気で失ったのであ

る。再び立ち上がることはできないと思つたが、59歳のとき、不思議な縁で、不動岡高校75回

76回生 渡辺大八朗

学友会事務局より学友会を魅力あるものにしたということ、古希のお祝いを兼ねて該当する76回生の私たちを、総会にご招待していただくことになりました。

「武蔵野の大地も紫にけむり、木々の梢もようやく芽吹こうとして、陽春、日に増し、その度を加えつつある今日の良き日に、校長先生をはじめ諸先生、ご来賓の方々のご臨席を仰ぎ：「昭和39年3月、菖蒲、騎西北川辺分校家庭科定時制全日制の卒業生の代表として答辞を述べさせていただきました。あれから52年、古希を迎えることができましたことは嬉しいことです。

私の好きな「青春」という詩があります。「年を重ねただけで人は老けない。希望ある限り若く、失望とともに老け朽ちる」

私は、実践のつとして、教育「今日行くところがあふ」教養「今日、用があるか」健康づくりを積極的に行っております。彩の国生きがい

大学の校友会として、ゴルフ、太極拳、ハイキング、カラオケ、フジック部に所属、フジック部の活動として、学童保育の子ども達や、介護施設の皆さんに喜んでいただいております。その他、ソフト

ボールの監督、彫刻の会会長等、仕事の合間に、今日行くところをたくさん抱えて、忙しい毎日を送っております。仕事を辞めたら、また、タイ

やハワイにロングステイして、ゴルフ三昧の日々を送りたいと計画しております。

卒業後以来、一度もお会いしてない方もたくさんいらっしゃいます。学園祭の「コマフォー

クダンスのオクラホマミキサーで、手を取り合った瞬間の恥ずかしさ、部活で汗を流し頑張った。キラキラ輝いた高校時代。

同窓会を開催することは、なかなか難しいので今回の学友会総会が良い機会です。同期生の皆さんや、先輩後輩に、ぜひお会いして、募るお話をしましょう。皆さんのご参加を、心よりお待ちしております。

同窓会報告

不高68同窓会 喜寿を祝う会



不動岡高校第68回卒業(昭和31年3月)生は、平成26年に77歳の喜寿を迎えました。お互いの健康を祝し、長寿を願うとして11月8日(土)不動岡高校100周年記念館で不高68同窓会を「喜寿を祝う会」と銘打って開催しました。平

成10年の還暦の年、平成19年の古希の年に次ぐ3回目の同窓会です。48名の元氣者が集まりました。1回目、2回目の各68名の参加に比べるとほんの少し寂しい感じになりましたが、時間がたつにつれ、年を忘れるほど賑やかで、あつちこち動き回り、大きな声が飛び交う会となりました。

各クラスの代表者が順に、60年前の高校時代の思い出をつい先日のごとくのように声高に語ったり、いまだ現役で、毎日忙しく仕事をしている近況をいきいきと報告したり、野菜作りや、絵画、陶芸、俳句などの趣味に多くの時間を費やし、生きがいを見出している様子

を熱く話したりしてました。元氣の秘訣がそんなところにあるのでしょうか。みんな納得しながら、報告に耳を傾けていた。

時間がたつのが早く、語りつくせないうちに予定の時間となってしまいました。次回の傘寿(80歳)の同窓会の開催を幹事に求めつつ、元氣に再会しようとする中、学友会幹事、学食のみならずにはたくさんお世話になりました。ありがとうございました。(68回生 宮崎 勝也)

79回生同窓会 半世紀ぶりの邂逅 銀杏の木陰で弾む声

電車の中で昨日いただいた新聞を開く。埼玉県知事賞の常連校となった不動岡高校新聞218号である。東日本震災のレポートを読み、5月の連休に福島に行こうと決めた。孤軍奮闘している後輩の激励のために被災地は8回目の視察。

些か夕べの酒で頭が痛い。血圧やら多様な薬を服用し、上を見れば残り少ない髪の毛、顔中に広がる影の深い皺。そんな66歳の仲間が集い79回卒業生の同窓会が母校の食堂で開かれた。

記念撮影の後、木造校舎とは変わった設備の素晴らしい環境をみて移り行く時代に自らの年齢を重ねる。東京オリンピックや東海道新幹線が高校1年。ピートルズの東京公演が3年時。授業をサボリ観に行つた者がいた。舟木和夫の高校3年生(赤い夕陽が校舎を染めて楡ならず銀杏の木陰で弾む声)。あの銀杏は？

開会に先立ち39名の友を偲び黙祷し挨拶のあと、乾杯で盛り上がる。定年後、サンデー毎日を謳歌している者、若者の就職が困難な時代に粘り強く仕事に精を出す者等、160名が参加した。想定を超える大勢に囲まれた数学の大塚先生に出席いただいた。多くの友と半世紀ぶりに邂逅し若かりし頃を思い出しながら時を過ごした。久しぶりに校歌を斉唱し場所を移動。二次会も100人を超える出席者の中、おじさんバンドの懐かしきメロディーを堪能し三次会へ流れる。夜遅くまで旧友を温め、元気に再開できることを約束しお開きに。



紙面の都合上、掲載は1枚とさせて頂きました。

部活に励んでいた精悍な生徒の皆様、礼儀正しい挨拶を交わし若さと情熱をいただいた。開催にあたりご指導いただいた小野田先生に感謝し、母校の益々の発展を祈つた。(79回生 発起人)

120回生同窓会

不動岡高校120回生を支えてくださつた柴崎道子先生、渡辺訓先生、村田潔先生の御退職祝いを5月30日(土曜日)に開催しました。先生方7人、卒業生50名ほどが加須(料亭 さかもと)にて、集まりました。

こうした機会が設けられたことによつて、先生方と生徒との関係は、数年経つても不変であることを感じられました。また、皆で肩を組みながら不動岡高校の校歌を歌い、御校の歴史、文化を再確認することができました。そして、学生時代の映像を視聴し、昔話に花を添え、懐かしさや恥ずかしさを共有できました。まさに、久しぶりに再会した恩師や友人との楽しい時間は、何にも変えることのできない価値あるものであります。



なによりも、御退職された3名の先生方が、とても楽しんでいた姿を見て、感無量でした。こうした会を今後も続けていき、不動岡高校の良さを繋げていきたいと思ひます。(120回生 萩原 育木)

同窓会案内

・83回生女子同窓会
日時：平成27年12月13日(日)受付11時
場所：不動岡百周年記念館
幹事：長谷部美代子
TEL：048(5909) 3151

・95回生同窓会
日時：平成27年11月14日(土)
場所：大宮
幹事：原田 勉
連絡先：Harada2106021@gmail.com
※詳細は埼玉県立不動岡高等学校95回生同窓会SHP (<http://fudooka95.jp>) をご覧ください。

平成26年度 学友会 年会費 納入の方々

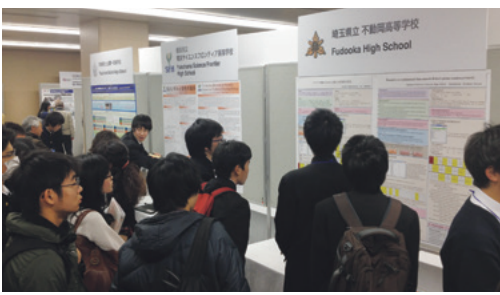
- 《50回生》並木忠雄《52回生》平野英一、中田豊功《54回生》小川勝信《56回生》小林宗三郎、小林悦夫、鈴木木男《57回生》亀山清次郎、新井健治、河野雪雄、針ヶ谷悦朗、岡安仁美《58回生》青木廣司《59回生》田辺茂巳、三枝安茂《60回生》駒宮太一、関口午郎、中太庄、増田勉《61回生》塩原秀夫、関口寛《62回生》齊藤五郎、台健、福田功、鷺川潤、森井信行、小暮晶朗《63回生》井ノ山恒雄、小沢政夫、齊藤博道、中島貞一、野本力、福島勇、内田時夫《64回生》大山泰雄、柿崎一郎、柿沼茂男、小嶋悦雄、桜井伝吾、篠崎英治、鈴木秀三郎、堤栄之助、中村周保、藤倉輝夫、町田重雄、松永喜芳《65回生》金子弘、杉田勝房、山田健、田辺雄三、藤間修一、富田眞平、野中優男、蓮見武男、福島宏志、木村信子《66回生》入江常夫、長瀬憲、福岡利則、山本愛子、藤田宏、田部井竹子《67回生》石川隆夫、坂城金作、藤澤格、松村修、松村敏孝、山田滋、海老原直江、根岸政子《68回生》青木清、伊藤伸一、今泉翼、坂本喜美夫、遠藤俊作、齊藤彰、中沢秀夫、清水佐知子、岩本澄枝、田部井静代、藤間基代、坂城文枝《69回生》阿部顕一、新井貞男、門井英二、木村恵一、永嶋龍次、沢田一男、蛭間貞夫、川島達男、渡辺宏、大貫巖、樋口忠孝、島村英一、岡戸徳次、山崎謙二、藤田永、藤田惇子、中川正男、森田利夫《70回生》朝比奈徹、岡田文男、田口健司、田辺利夫、野中正幸、松村雄、熊谷あ子、加藤美好、田辺末子、新井秀子、田代初江、荒川岩雄《71回生》高橋洋子、新井榮三郎、石川勝正、藤居弘、小修、橋本隆、掘越大能、山根克己、石田勝己、中島信行《72回生》阿部紀子、青鹿三郎、石川勝正、藤居弘、小川智之、児島圭吾、小林孝次、中村俊継、野中常七郎、町田晶洋、水垣浩、小寺順子、新井陽吉、河野充宏、加庭寿久《73回生》柳沢弘子、金子久美子、小山不二夫、須田繁、中島英世、萩原義之、酒井武、森博《74回生》齊藤陽子、埴原千代喜、渡辺由紀子、早川正男、篠崎秀晃、田島耕一、萩原忠夫、亀山健太郎、卯都木菊雄、永橋進、川井一彦、中島武、渡辺孝太郎、柳洋子《75回生》小川洋子、神澤靖昭、中島良雄、横山博之、柏浦重夫、塩崎一秀、水野勉、小川王幸、原徹《76回生》齋藤萬智子、菊地幹夫、吉田耕、今津道子、松永百合子《77回生》吉澤陽子、桧井幸子、塩崎とも子、島田一彦、福島弘明、三ツ木義弘《78回生》広瀬純子、桂美枝子、梶山至、栗原富雄、中校正一、栗原正孝、齊藤幸雄、岡野幸雄、吉澤境、島崎昭、塚田喜三、手島重夫、加藤五郎、金子孝志、野川保、野中史一、中村滋、鈴木松藏、川田恒和、大橋良一、清水義雄《79回生》大塚はま子、小笠原カヅ江、岡崎貞子、上野均、卯木正雄、大塚忠男、大塚勉、柿沼孝夫、齊藤隆宗、岡安正志、齊藤桂一、佐久間静雄、吉岡真三、吉田昌弘、青木邦夫、石川利男、岩崎信太郎、石川薫、石森実、岡田幸男、神田久、小林博、齊藤善孝、須藤文夫、野中重男、長谷川京司、池田栄一、石川哲夫、石川昇、市川博章、松村秀、山菅利厚、酒巻孝次郎、松本勝保、新井好一、岡野國男、卯木正雄、石川哲夫《80回生》保原正子、金子忠、栗原基安、平社陽平、藤田竹一、鈴木孝士、矢嶋利雄、田口幸隆、日下高雄、高橋拓治《81回生》栗上律子、瀧田和子、新井廣子、伊古田陽子、野口敏男、高瀬賢一、野々山和博、秀間道信、植竹博、瀧田実、橋本順雄、蓮沼嘉一、増田俊夫、宮浦平治、茂木晴美《82回生》熊谷麻子、片岡みどり、関根知代子、成田守弘、小池正則、鳥海和彦、関根剛、長島巖、三木和明、黒須明海、増田卓司、安藤功、田中元三郎《83回生》田辺厚子、長沢清輝、宮崎弘行、小倉健治、大島豊、若山勝彦、赤坂栄一、三ツ木規之、腰塚隆、関根雅彦《85回生》荒井弘、荒井信男、加藤志、木村操、高橋一雄、平沢清、小泉勝己、太田順子、小態喜美雄、川辺貴史、吉野宏、金子清正二郎、宮本雅史、吉田憲史、岡尚省、川崎一也、遠藤次朗、小野田幸夫《86回生》小林くみ子、柏原幸子、中野晃、松岡延勝、吉野道博、角田守、石井義久、駒井信亮、森田孝文、奈良高男、船川喜正、川島幸雄、矢島孝夫、秋山知一、大澤誠、濱崎秀男《87回生》木村弘、岡安一雄、瀬山良一、植松和子、田中利幸、角田守良、奈良邦彦、篠崎久雄、中村一夫《88回生》谷津孝、渡邊昭彦、白石秀明、中島一郎、鈴木紀之、松永知子、森田しのぶ、秋山泰、塩原由紀雄、幼方忠雄《89回生》石井仁、吉田正、齊藤規生、小川博和、坂田亨、細村泰夫、植竹隆、武正章《90回生》金子孝雄、矢島泰、田島洋文、玉田建夫、羽田邦弘、増田陸、川上良一、石井伯夫、夢川典典、小川毅彦《91回生》小鏡敬子、矢辺徹、橋本和人、高橋宏晃、大和田一善、細田悟、高橋章《92回生》落合章子、小岸浩、鎌田時江、金子幸江、赤坂由美、隅田薫、木村知代、高橋詩絵、竹田秀行、秋山淳、齊藤重雄、江原千裕、齋藤一夫、齊藤正美《93回生》諏訪文晴、横堀卓子、萩原章、中村孝広、千葉達也、高橋敦男《94回生》新島浩、加茂仁、柿沼武夫、齊藤貴之、堀口真史、赤坂政幸、山田徹夫《95回生》川島規行、熊谷壽、遠藤貴子、清水真由子、山中利明、松本剛明、荒木克久、石川雄一《96回生》鈴木洋子、松本毅、梅澤義一、石井幸子、齊藤千恵美《97回生》大塚俊《98回生》野本淑子、真坂八重子、小秋元美弥子、鷺田博明、松本幸枝、田村禎子《99回生》中村和美、山下敏行、諸井真英、長沼理史《100回生》幸谷智《101回生》中村重継、中沢光洋、萩野光子、駒場慎一、鳥海和彦《103回生》中沢和紀、内田裕子、今津聖之助《104回生》吉久保道明《105回生》日下部綾子、金久保栄子《106回生》荒川将司《107回生》福田辰紀《108回生》成瀬喬、三木智一、塩崎秀弥、福島啓之、石川和弘《109回生》谷口博夫、渡辺千恵子、岸本淳《110回生》中里善匡《111回生》石川真也、萩原宏和、岩淵美恵《112回生》駒井康秀《115回生》鈴木耕平、大久保聡司《116回生》金子真奈美、市川めぐみ、諏訪桃子、駒井信勝《117回生》橋本圭一郎、船川健一《118回生》戸枝沙奈子、堀智彦《119回生》新井亮裕、船川康太、岡本貴郁《121回生》酒巻和也、樽井翼《123回生》貝塚翔太《125回生》久保田諒、酒井李央奈、北林はる菜、石沢嵩晴、小林祐輔《126回生》伊藤美穂、杉村直見、野澤和生、今野直貴、濱野拓弥、渡辺且弥、町田規憲、樽井絵里奈《羽分・1回生》阿部武夫《定1回生》秋山美佐保、赤坂登志子《北分・1回生》飯塚利生《定2回生》網取八重子《定3回生》田口真平《葛分・3回生》中山弘《定6回生》並木政政《葛分・7回生》倉持悦夫《羽分・7回生》大月美代子《北分・7回生》首藤幸子《定8回生》中山弘《定8回生》田口富治《葛分・8回生》石井ひで《定12回生》古沢道康、矢澤光子《輪分・12回生》野口千栄子《羽分・13回生》中村和子《北分・15回生》中田英文《羽分・17回生》中村正次郎《羽分・18回生》星フヂ子 旧姓：卒回不明のためご連絡お断りします。荒川桜子、福島明、中嶋豊梧(敬称略)

学友会年会費納入について
学友会事業費は、学友会員の皆様から納入する会費により賄われておりますが、そのほとんどは、在学生が卒業時に納めたものとなっております。会員の皆様からお預かりした会費は、学友会だよりの印刷・発送、学友の集い開催費用等に充てるほか、校内の環境設備の一部資金等として在校生のためにも役立っています。学友会ではこうした活動を充実させるため、平成25年度総会において会則の一部改正により『年会費1000円』を明確にするとともに、『10年分まで前納出来る』ことと致しましたので会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。なお、会費を納入していただけない場合には、学友会からのご案内等の送付を見合せる場合もありますことをご了承下さい。

現在の不動岡高校

スーパーサイエンスハイスクール (SSH)の取組

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)とは、国際的に活躍することができる科学技術関係の人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定(1期5年間)し支援する文部科学省の事業で平成14年度より行っています。内容としては、学習指導要領によらないカリキュラムの開発および実践、課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等です。平成27年度現在、本校を含め全国で204校が指定を受けています。本校は平成23年度に指定を受け今年度が5年目で第一期の最終年になります。現在、来年度からの継続を目指し申請を準備中です。



WPI(世界トップレベル研究拠点プログラム)参加

本校のSSHは「事実」から「気づき」そして「探究」へ科学的素養を身につけ、生涯にわたって「科学」に対する意識を持ち、持続可能な社会の創造・発展に貢献できる人材を育成する教育課程・学習指導法の研究」を研究開発課題に設定し全校体制で取り組んでいます。今年度の主な取り組みとして



JICAでの研修

は、1.探究活動への意欲の向上させるものとして、2年生理系選択者対象の「SS課題研究」、2.大学や研究機関と連携することにより

科学的素養を身につけるものとして、希望者対象の「東大研究室見学実習」、3.国際的に研究交流することにより、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけるものとして「アメリカ研修」、4.SSC(スーパーサイエンスクラブ)を創設することにより、より深い知識を得たり、地域に発信したりする取組として、シンポジウムなどへの参加や「不動岡高校サイエンス教室」等があります。詳細は本校HP(<http://www.fudooka-h.speccid.jp>)や国立開発研究法人科学技術振興機構(JST)のHP(<https://ssh.jst.go.jp/>)をご覧ください。(曾根 剛)

スーパーグローバルハイスクール (SGH)の取組

本校は今年度、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定されました。期間は平成31年度までの5年間となります。SGHとは、「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身につけ、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等教育段階から育成する」(文科省)

の世界を創造する品格あるリーダーの育成です。これは平成12年度に「新不動岡ビジョン」として策定され、現在は「目指す学校像」となっているものです。つまりこの度のSGH指定は、これまでの本校の国際理解教育やFプラン(総合学習)等の教育活動が評価され、さらなる発展を期しているものであると言えます。

具体的事業内容としては、Fプラン、異文化理解、SGC(スーパーグローバルクラブ)を三本の柱として、課題研究(フィールドワークによる調査、研究内容のプレゼンテーション等を含む)を行います。研究分野は国際的課題であり、かつ地元でも課題となり得るものとして、

Ⅰ 環境との共生(①ゴミ問題・リサイクル、②エネルギー問題)
Ⅱ 他者との共生(多文化共生)
Ⅲ 地方創生(①伝統文化と地方創生、②少子高齢化・過疎)

の三分野五項目を設定し、課題研究を進めます。併せて、マレーシア、ドイツ、アメリカの各国に生徒を派遣し、現地でのフィールドワークや研究発表等を実施します。また、国内でもJICAでの「リーダー育成研修」を実施し、生徒の「品格あるリーダー」としての資質の向上を図ります。

指定1年目ということで、まだまだ生徒も教員も手探りで活動に取り組んでいる状態です。学友会の皆様におかれましては、様々な形で御支援を賜りますようお願いいたします。(松本 直樹)

海外研修SGH・マレーシア

7月7日(火)～11日(土)の4泊5日のマレーシア研修に行ってきました。3年9組の9名の参加者と2人の教員が引率しました。訪問地はマレーシアの首都のクアラルンプールでした。

1日目：(午前)成田空港↓(夕刻)クアラルンプール空港着。

2日目：現地の大学2校を訪問。午前中マレーシア最高峰のマラヤ大学、午後大学の設立に日本とゆかりの深いマレーシア国際工科大学(MJ-IIT)を訪問。その後、クアラルンプール郊外にあるバングリスタ村にホームステイ。

3日目：クアラルンプール市内のサティアワン小学校(公立)と孤児院を訪問。

4日目：午前中マレーシア国内で30店舗を展開している日系企業「イオン」を訪問。午後はフィールドワークとして、現地の大学生2人の案内で、市内の公共交通機関であるモノレールを利用し、中華系の寺院「関帝廟」とヒンドゥー教寺院、ツインタワーをめぐる。(深夜)クアラルンプール空港↓機内泊。

5日目：成田空港に到着。



多民族国家であるマレーシアで、学校訪問、企業訪問、フィールドワークを通して、他民族の共生がどうなされているかを生徒はそれぞれの研究テーマ①宗教、②食文化、③教育、④経済格差、⑤産業(地域創生)の視点から調査しました。訪問した時期が Ramadan(断食月)だったこともあり、イスラムの文化、習慣の理解も深まり、またそれぞれが各訪問場所での精神的に質問をして、多くのことを学ぶことができたマレーシア研修でした。(11回生 田沼 尚子)

海外研修オーストラリア

平成27年7月30日、第25回オーストラリア海外研修が幕を開けた。交流が始まってから25年という節目の年である。参加生徒20名ほとんどが海外初体験であった。31日午前6時半にゴールドコースト空港に到着し、クイーンズランド大学へ向かった。大学ではオーストラリアの動植物についての講義を受けた。生徒は非常に活発に取り組んでおり、積極的に質問をしていた。その後キングガロイへ直行し、10日間わたるホームステイが始まった。意思疎通が図れない状況の中、生徒は笑顔でそれぞれの局面を乗り越えていた。キングガロイ高校では全校生徒の前で、英語で自己紹介をする機会があったが、どの生徒も堂々とスピーチをしていた。10日間のホームステイ生活はあつという間で、終わる頃にはそれぞれのバディとまるで兄弟のような仲になっていた。今回の参加生徒は、どんな状況に置かれても臨機応変に対応し、わからないことは些細なことでも質問をし、常に笑顔を忘れないという素晴らしい特質を持っていた。市役所、小学校、大学と様々な場所を訪問したが、行く先々でお褒めの言葉をいただくことができた。14日間という短い期間であったが、一生心に残る研修になったと確信している。(山下 泰寛)



海外研修SGH・ドイツ研修

今年も、8月18日から26日の9日間、生徒13名を引率して、SGHのドイツ研修を実施しました。今年から文部科学省SGH研究指定の一環として行われたこの研修では、5月11日の募集要項発表、参加生徒の募集開始に始まり、21回の事前研修を経て、研修当日を迎えました。

研修期間中は、2ヶ所の大学訪問を行い、そのうち1校では事前研修でリサーチをした「多文化共生」、「少子高齢化と人口減社会」という日本とドイツに共通する課題についてのプレゼンテーションと質疑応答を行いました。また、昨年と同様、ヴェストファーレン州・ドルステン市に4日間滞在し、生徒はホームステイと、現地校、エリツヒクラウゼナー・レアルシューレの生徒との交流を体験しました。こ

こでも、現地校の生徒を前に、「ゴミ問題」と「エネルギー問題」についてのプレゼンテーションと質疑応答を実施しました。事前に用意した原稿とパワーポイントスライドを使って、生徒達は堂々とプレゼンテーションを行うことが出来ました。事前研修の成果が現れた瞬間を、私達引率教員も共有することができ、胸が熱くなりました。

ホストファミリーとの交流では、本校生徒は家族の一員として本当に温かく迎えても



らった様子です。この場をお借りしてホストの皆様にお礼申し上げます。研修最終日、ホストとのお別れの場面では、生徒達は涙を流して、彼らとの別れを惜しんでいました。中には将来、必ずこの地に戻ると約束をして別れた生徒もおりました。

このように生徒達は、たった9日間ではありますが貴重な体験をして、人間的にも一回り成長して帰国することができました。この場をお借りして、この研修実現に向けて尽力いただいた先生方や関係する皆様にお礼申し上げます。ありがとうございます。生徒達の今後の更なる成長に期待したいと思います。

(101回生 塩原 壮・114回生 塩原 崇央)

水泳部 関東大会・インターハイ出場

今年度水泳部は10名の新入部員が入り、27名で活動しています。日々の練習に対して全員が前向きに取り組み、大会でも毎回良い記録を出しています。県大会ではランキング20位内に入る者も増えて、決勝進出者さらには入賞者も出ています。県公立高校大会では女子総合2位になりました。

その中で、関東大会や全国大会に出場する者も出ています。まず、4月下旬に行われた関東春季水泳競技大会に3年高島夏苗が50m・100m背泳ぎで出場しました。50m背泳ぎでは6位入賞を果たしました。そして、1年高島春佳が学校総合体育大会県大会において、100m平泳ぎで入賞を果たし関



東高等学校水泳競技大会への出場権を得ました。そして、関東大会では、予選で全国大会出場の標準記録を上回りインターハイへの切符を勝ち取り、その上、決勝レースにも進みました。

インターハイは京都で8月17日～20日に行われました。予選通過はなりませんでしたが、全国大会の舞台で堂々と泳ぐ姿には感銘を受けました。本人にとっても大きな財産となったと思います。また、他の部員にとっても刺激となり、部全体の活性化につながると確信しています。

(水泳部顧問 松本 裕行)

キンガロイ高校との交流会 茶道体験を終えて

姉妹校として交流を始めて今年19年目になるオーストラリア・キンガロイ高校の生徒22名と引率教職員4名が来校し、7月3日に交流会の環として茶道体験が行われた。

茶道体験に先だって浴衣の着付けが行われ、キンガロイの生徒全員がかわいらしい浴衣姿に変身した。その姿のまま和室で行われた茶道体験では、着付けではしゃいでいたのとはうって変わって借りてきた猫のようになり、茶道部長の長谷川哲也君(2年1組)によるお点前を厳粛な面持ちで見学していた。続いて、牧野恵美さん(3年9組)の英語での作法



びわこ総文祭(第三九回全国高等学校総合文化祭)に参加して

文化部のインターハイと呼ばれる『全国高等学校総合文化祭』は今年で39回を迎えました。7月29日から二泊三日で、琵琶湖に面した米原市の滋賀県立産業文化会館を会場に、全国の新聞部が一同に会し、新聞を披露し合い、交流会を行いました。昨年の11月に出品した全国新聞コンクールにて入賞したことで、今年も部員2名が参加いたしました。

印象的だったのは、「交流新聞」作りでの各班の様子です。本校の部員も含めて、はじめは他県から集まったメンバーと意見交換もしくい様子でした。しかし、企画立案、取材、レイアウト、記事書きと作業を進めるうちにまるでプロの記者のように生き生きと新聞を作成し、完成時には誇らしげな表情が輝いていました。得がたい経験をすることができたと思います。

また、この期間中に新聞コンクール全国大会の最終審査があり、本校は「優秀賞」を受賞いたしました。今後とも「指導」「鞭撻」よろしくお願ひ申し上げます。

(新聞部顧問 96回生 関口 恭子)



音楽部 今年の主な活動

平成27年は、2月11日、バストラルかぞにて日本少年少女オーケストラ国際フェスティバルに賛助出演。3月5日には、NHK「BS日本のうた」の収録が行われ、バックコーラスとして、3曲うたわさせていただきました。普段のパストラルとは見違えるような立派な舞台装置の中、プロの歌手の皆さんと共演できたのは、大変貴重な経験でした。7月19日、第24回定期演奏会を同じく、バストラルかぞで開催しましたが、会場のお客様のお蔭で心温まるコンサートになりました。ミュージカル「人間になりたがった猫」も、よい演技と音楽で好評でした。8月22日、埼玉県合唱コンクールがさいたま市文化センターで開催されましたが、金賞を受賞し、関東大会に出場できることになりました。32人以下のAグループでは4年前に出場いたしましたが、33人以上のBグループとしては、平成11年以来、16年ぶりの金賞受賞になりました。部員51名、皆様の応援に感謝し、更なる飛躍を目指し頑張っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

(音楽部顧問 浅井 一郎)



新聞部が発行している校内新聞の一部です。今年の生徒の活躍を新聞部の視線でご覧下さい。



発行所
埼玉県加須市不動岡1-7-45
埼玉県立不動岡高等学校
編集・発行・印刷
不動岡高校新聞部

第130回入学式 不動岡生の第一歩踏み出す

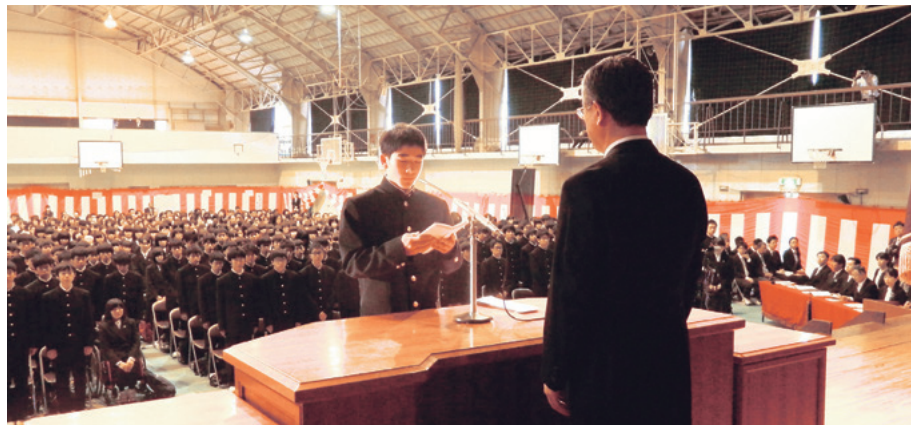
六日(月)、暖かな春の陽気の中第三〇回入学式が挙行された。普通科三二六名、外国語科四名の計三三七名が入学を許可された。

にぎやかな部活動勧誘のもと、新入生は体育館へと向かった。入学式前の新入生に今の気持ちを探ねると「少し緊張しています。でも、楽しみです」と話す。また、部活動勧誘の様子を見て「部活動も盛んなようで、これからの生活が楽しみです」と声があがった。

式が始まり、新入生全員は担任の先生の呼名に緊張しながらも、ハツラツとした声で応えた。阿久津校長は「皆さんがこれからの三年間、楽しく充実した毎日を送るとともに、心と頭と体を鍛え、知識の活用を身につけた若者に成長し、真のリーダーの素質を獲得することを

心より願います」と式辞を述べた。新入生代表の挨拶では、横山春樹くん(一六)は「社会情勢を冷静に見極め、自分が今何をすべきかを考える力を学校生活を通して身につけていけるように、何事にも全力で取り組んでいきます」と意気込みを語った。最後に音楽部による校歌紹介で式は幕を閉じた。

式後、新入生代表の横山くんは「緊張したけれど、担任の上原隆能先生に優しい言葉をかけてもらったので落ち着いて成功させることが出来ました」と入学式を振り返った。不動岡高校に入った理由を探ねると「文化祭に来て先輩たちが優しく接してくださったからです」と話した。最後に高校生活で頑張りたいことを聞くと「部活と勉強の両立です」と力強く話した。(長谷美)



新入生代表挨拶をした横山くん

新入生オリエンテーション合宿 仲間との信頼関係を築く

三〇回生が入学して約一週間後の週末の二日間にかけて、栃木県にあるツインリンクもてぎでオリエンテーション合宿が実施された。

一日目は学年主任の話が始まり、応援部による校歌・応援歌指導や、学習オリエンテーションが行われた。また生徒に好評だったのは、卒業生とのパネルディスカッションだった。六人の不動岡の卒業生が、現役時代、受験勉強を始めた時期や、今の自身の大学生活などを話した。

二日目は英語の学習オリエンテーション、またホテル周辺のサーキットを使つてのフィールドオリエンテーションが、一組から五組、六組から九組と行ったように分け、それぞれ同時進行で行われた。チェックポイントをまわり、そこで出される課題に取り組んでいく、という内容だ。後半に行つた

組から五組はあいにくの雨により途中で切り上げとなった。昼食はご飯とカレーを自分たちでつくり、フィールドオリエンテーションを行ったグループごとで食べたという。

学年主任の塩原先生は「二日目に雨に見舞われることもあったけれど、充実したプログラムだったよ。やはり合宿後には生徒がひと回り成長した姿が見られたな。クラスの人間関係も強まったし、実施した甲斐があった」と笑顔で話した。

(瀬山)



グループでカレーライスを作った様子



学習オリエンテーションに真剣に臨む一年生

学食 料金値上げ! 校内からは悲痛な声

本校の記念館階に位置する学生食堂。残念なことに、新学期が始まると共にメニューの料金が値上げされた。学食を利用した生徒からは「お小遣いが足りなくなってしまう!」「少しだけ行きづらくなってしまう」など、値上げを悲しむ声が多く上がった。値上げの主な理由は、近年の物価高騰や公共料金の値上げ、加えて消費税増税だという。食堂チーフの松橋隆さんは「二年度で、学食で取り扱っている食材の約八割が値上がりしてしまいました」と話す。また、「不動岡高校の食堂はとても立派です。値上がりはしてしまいましたが、ぜひ、クラスメイトや部活友達と一緒に来てみてください。利用者が増えて大量仕入れが出来れば、ある程度コストが下がるかもしれません」と語った。(吉岡)

品目	新価格	旧価格
Sランチ	530円	480円
Aランチ	420円	380円
Bランチ	400円	360円
丼物	400円	360円
カツカレーライス	390円	350円
カレーライス	320円	290円
スパゲティー類	320円	290円
うどん類	280円	250円
ラーメン類	300円	270円
焼きそば	280円	250円
冷し中華	330円	300円
冷したぬき	320円	290円
サラダ	200円	180円
大盛	100円	80円

「翔耀」 翔ける眩しいほどのぼくらの青春



また、「今年には生徒会役員の人数が少ないのですが、だからこそ生徒一人ひとりの意見を尊重していきます。昨年よりもさらなる成長を目指し、不動岡の学校祭を作り上げていきたいと思っています。頑張ります」と意気込みを見せた。

最後に佐藤さんは「学校祭期間だけは勉強のことを忘れて、各団の団長を筆頭にクラス九丸となって、大いに盛り上がりてください」と生徒に向けてメッセージを送った。

団旗

昨日、全ての団の団旗が完成となった。団旗は、三年生各クラスの団旗係が中心となり、昨日の締め切りに向けて制作されてきた。放課後や休日には中庭で作業する様子が見られた。SEKAINOWARIのFukaseを描いたF団の団旗係は「作業は大変でした。最初はいま描けるか不安でしたが、無事完成してよかったです」と話した。また、出川哲郎を描いたD団の団旗係は「鼻を挟んでいるザリガニがポイントです」とアピールした。(久保田)



中庭で着色作業をするB団

翔けて耀っていた体育祭 D団優勝・団結賞二冠!



綱引きで優勝し、総合で二位に輝いたE団



D団の総得点数は1980点で二位だったE団とは15点の僅差での勝利であった

五月二十六日(火)、第六三回学校祭が開幕した。翌日には市中パレード、そして昨日二十八日(木)には体育祭が行われた。今年度はD団が優勝と団結賞の二冠を成し遂げた。(鞆子)

体育祭は晴天の下挙行された。入場は各団のパフォーマンスに始まり、開会式では毎年恒例の各団長と校長による掛け合いで会場を沸かせた。今年の優勝と団結賞はD団が総なめし、二冠という偉業を成し遂げた。D団団長の金子直輝くん(三十四)は「正直実感が沸きません。でも一つひとつの競技で勝って、こうして素晴らしい賞を二つも頂けて本当に嬉しいです」と笑顔で話した。

各競技では、様々な白熱した生徒たちのバトルが繰り広げられた。大縄跳びではE団が息を合わせ連続三三三回と記録を伸ばした。綱引きでは予選準決勝、そして決勝と勝ちあがったE団が見事二位を掴み取った。また、各団の総力戦でもある団対抗リレーではH団がトップでゴールした。

晴天のもと市中パレードが行われた。気温が三〇度近い中、生徒たちは、千方神社から加須駅のロータリー、商店街を経て学校までを元気に進んだ。また、薬物乱用防止と文化祭について呼びかけ、積極的にティッシュを配る生徒の姿が見られた。今年度は、二〇〇人以上の生徒が参加したという。

市中パレード 日照りの中を元気に進行

パトリダーの三年九組衛藤陽平くんは、「暑い中でしたが、トラブルもなく終えることができました」と話した。(神原)



応援部を先頭に街を行進した



ジェスチャーを交えて歌声を披露した音楽部



箏曲部は「情熱大陸」などを演奏した

4つの部が魅せた文化発表

Welcome to Fudooka!!



友好の証として送られた時計を掲げる阿久津校長



朝行われた歓迎式典

キンガロイ高校来日

六月二十八日(日)から十一日、オーストラリアの姉妹校であるキンガロイ高校から、四人の先生と三人の生徒が来校した。二十九日(月)には歓迎式典が催され、両校の友好を深めた。今号では、その交流の様子を写真とともにお届けする。(瀬山)

スピーチコンテストで関東へ

六月三日(金)にさいたま市で第二四回英語日本語スピーチコンテストが開かれ、本校から牧野恵実さん(三十九)が参加し、「The Door of Return」というタイトルで県知事賞を受賞した。内容は日本の人種差別についてだ。牧野さんは「この賞をもらったとき、素直に嬉しかったです」と感想を話す。「順番が一番最後でずっと緊張していました。また「関東大会もあるので頑張りたいと思います」と意気込んだ。(瀬山)

桑原くん会長生活を振り返る

前期会長を務める桑原周友くん(三十九)の任期がまもなく終了する。桑原くんは「会長を学校祭という大イベントの時期に務めたのは大変でした」と振り返る。立候補した黒岩さんに「大変なことです。みんなを引っ張ることに励んでください。またスピーチ頑張ってください」とアドバイスした。

生徒会と生徒の連携を迅速に

黒岩さんが掲げる公約は「まず目が見直したい」と話した。黒岩さんは「行事がある度に、生徒会から生徒への情報伝達が不十分なため、もめてしまうことがあります。今年の学校祭でも、テスト後の短期間の準備で忙しく、発信が行き届きませんでした。こうしたことは、生徒会の信頼を失ってしまうので、積極的に生徒と関わりたいです」と話す。二つ目に挙げるのは迅速に行動すること。「目安箱の意見は会議で確認して、役割分担をするのですが遂行できていないこともあります。生徒会がまとまって情報を扱い、生徒に疑問を与えないように務めていきたいです」。

後期生徒会長選挙

七月九日(木)の午後、後期生徒会長選挙が行われる。そこで、生徒会長に立候補した黒岩彩さん(二一五)と副会長に立候補した高山寧々さん(二一六)に意気込みを聞いた。(鞆子)

今回生徒会長に立候補した黒岩さん。まず立候補した理由を聞いた。「全校生徒と生徒会の連携をもっと迅速にしたい。そのためにまずは生徒会の活動を見直したいと思ったからです」と話す。

黒岩さんが掲げる公約は「まず目が見直したい」と話した。黒岩さんは「行事がある度に、生徒会から生徒への情報伝達が不十分なため、もめてしまうことがあります。今年の学校祭でも、テスト後の短期間の準備で忙しく、発信が行き届きませんでした。こうしたことは、生徒会の信頼を失ってしまうので、積極的に生徒と関わりたいです」と話す。二つ目に挙げるのは迅速に行動すること。「目安箱の意見は会議で確認して、役割分担をするのですが遂行できていないこともあります。生徒会がまとまって情報を扱い、生徒に疑問を与えないように務めていきたいです」。

野球部初戦 対川口工業高校 堅い守りで完封勝利



奥山のスクイズで大竹がホームに帰還し先制点を得た

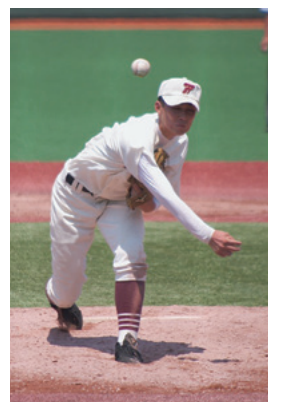
TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	H	R	E
奥山	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	4	1
川口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3

七月一日(土)、川口市営球場で第七七回全国高等学校野球選手権埼玉県大会の不動岡高校対川口工業高校の試合が行われた。暑い日差しの中、堅い守備で相手に二点も許さず、二点を奪った不動岡は二〇〇で見事勝利を手にした。(長谷美)

一回表、不動岡の攻撃から始まった。試合が動いたのは、五回表の不動岡の攻撃。まず、大竹が四球で出塁。次打者相良の安打で大竹は三塁へ進み、奥山のスクイズで大竹をホームに還し、不動岡は二点を先取した。裏では川口工業の攻撃を封じ、堅い守備を見せた。

七回表、不動岡の攻撃で大竹、奥山が二三塁まで進めるも、得点はできず。裏の守備では、レフトフライを相良がスライディングキャッチし、アウトをとった。見事なキャッチに観客席からは歓声が沸いた。しかし、八回裏の川口工業の攻撃で二塁打を決められ、緊迫した状態が続く。だが、齋藤(和)が最後にサードゴロをキャッチし、食い止めた。

九回表には相良がセンターオーバーで三塁打を決めた。続く奥山の打席で、相手の送球エラーにより相良がホームインし、二点を追加。裏の守備では、奥山がすべてアウトにし、不動岡は最後まで二点も許さず、守りきった。



無失点で相手を抑え、完投した齋藤(和)投手

二〇一五年度の入試結果

今春の入試状況

進路指導主事 齋藤 勤(86回生)

2015年度入試の特徴は、①前年減少したセンター試験志願者は、現役生1万2千人増、既卒生1万3千人減、全体としてはほぼ前年並みであった。②国公立大前期志願者は前年より4千人、約4%の減少。新課程での理科の負担増が理由と考えられる。③私大志願者は前年並みだが、センター方式はやや敬遠された。④ここ数年続いた「文低理高」は沈静化し、法学系の人気回復、理・薬学部の志願者減が目立った。文系の人気回復は今年度も続くとの予想である。⑤センター試験の平均点は文系で上昇し+9点(900点満点)、理系で+11点で前年並みだった。⑥昨年同様、地元志向は強いが、首都圏と関西圏への流入は増加した。

今年度入試で本校は、国公立大学に83名合格した。

東京大学に3名合格した。また旧帝大では東北大学に2名、北海道大学に2名、名古屋大学に1名合格した。さらに、国公立大学医学部医学科に2名合格し、難関大への合格者を増やした。

首都圏地元大学では埼玉大学23名、筑波大学4名、千葉大学7名、お茶の水大学1名、東京学芸大学3名、横浜国立大2名、埼玉理科大学8名、首都大学東京に3名など多くの合格者がでた。私立大学では早稲田大学22名、東京理科大学26名、明治大学48名、立教大学55名など延べ1045名の合格者がでた。

2015年の合格状況

Table with columns: 国立大学, 現役, 浪人, 進学. Lists various national universities and their admission statistics.

Table with columns: 公立大学, 現役, 浪人, 進学. Lists various public universities and their admission statistics.

Table with columns: 私立大学, 現役, 浪人, 進学. Lists various private universities and their admission statistics.

Table with columns: 亜細亜大, 大妻女子大, 学習院大, etc. Lists specific private universities and their admission statistics.

Table with columns: 東京経大, 東京工大, 東京慈恵会医, etc. Lists specific private universities and their admission statistics.

Table with columns: 東京工大, 湘南医療大, 帝京科学大, etc. Lists specific private universities and their admission statistics.

Table with columns: 大学校, 現役, 浪人, 進学. Lists university schools and their admission statistics.

Table with columns: 私立短大, 現役, 浪人, 進学. Lists private short-term universities and their admission statistics.

Table with columns: 留学・就職, 留学, 就職. Lists statistics for students who studied abroad or found jobs.

Table with columns: 看護学校, 現役, 浪人, 進学. Lists nursing schools and their admission statistics.

人事異動

転出・退職

Table with columns: 氏名, 回生, 前任校, 転出先・採用先. Lists staff departures and resignations.

転入

Table with columns: 氏名, 回生, 前任校. Lists staff transfers.

訃報

(39回)青木重次(41回)小嶋茂朔、萩原美郎(42回)塚田喜文、中島正一(45回)荻野佑洋、篠崎達夫、玉川玄悟(48回)倉持武雄(50回)小山清高、橋本長一(52回)内田也、川島敦、柴崎安民、鈴木桂輔(53回)石井登、柿沼実(54回)中島竹二(55回)大谷龍良、真家光正、長崎勳、宮戸俊策(56回)大久保和夫、小林宗三郎、遠山元、遠山善秀、樋口義男(57回)齊藤良雄、鈴木隆夫、島海理、西田助芳(59回)河野靖、小山千秋、中里武次、横山光作(60回)杉田則弘(61回)石渡幸男、蓮見行全、星野義一(62回)小暮晶朗、関根淳善、中島安夫、根本英俊、山崎武(63回)関根英治(65回)野本美明(66回)小林宏、長島隆(67回)大野邦夫、齊藤錦子、富塚勇(68回)荻野重利、折原利男、野中望、町田一郎(69回)鈴木国平、細村幸男(70回)堀口喜正(72回)門井雄三(74回)小林登美子、吉羽(松島)輝雄(80回)浅田勇、須田市男、田沼栄(88回)松本秀春(97回)三浦崇(羽分・3回)赤坂潤

学友会事務局員募集
お気軽にお電話ください。
TEL 0480-61-0140

学友会ホームページ
http://gakuyu.fudooka-h.ed.jp

メール配信サービス
学友会では学友の皆様と親交を深めるために、メールによる情報配信サービスを始めました。右記QRコードで是非ご登録下さい。

